

春日市指定管理者導入施設の業務実績評価【対象年度:令和6年度】

1 基本情報					2 施設情報(休館など)						
施設名		春日市総合スポーツセンター及び西野球場			なし						
指定管理者		春日まちづくりパートナーズ									
指定期間		令和2年4月1日から令和7年3月31日まで(5年間)									
担当所管		文化スポーツ課スポーツ担当									
3 利用者数											
指定期間		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目					
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度					
年 度			前年度比	前年度比	前年度比	前年度比	前年度比	前年度比	前年度比		
利用者数		合計	275,626人	284,553人	103%	421,018人	148%	473,266人	112.40%	486,531人	102.80%
施設内訳	総合スポーツセンター	260,909人	269,595人	103%	400,519人	149%	454,388人	113.40%	467,169人	102.81%	
	西野球場	14,717人	14,958人	101.60%	20,499人	137.00%	18,878人	92.10%	19,362人	102.56%	
4 履行確認項目への評価											
分類	履行確認項目	評価の視点		確認内容	評価	特記事項					
施設維持管理	清掃	適正に実施されているか		・日報 ・現地確認	○						
	設備保守点検	・適正に実施されているか ・事故等が発生していないか ・不具合の対応は適切か		・実施実績の記録 ・事故の発生の有無 ・施設状況の把握	△	・バスケットゴール移動時に床保護用プロテクションパネルを使用するなどメインアリーナの使用制限を行っているが、メインアリーナの損傷は低減できていない。 ・床板損傷に伴う適切なメンテナンスの実施や対応策を提示できていない。					
	警備	・適正に実施されているか ・事故等が発生していないか		・日報 ・現地確認	○						
	小規模修繕	・適正に実施されているか ・不具合の対応は適切か		・施設状況の把握内容 ・改修計画の有無	○						
運営業務	運営状況	・公共性・公平性を確保しているか ・事業計画等どおり実施しているか		・開館状況 ・各種事業の実施状況 ・利用許可の手法	○	・一定の利用条件を示し、公平・公正な対応ができていた。 ・事業計画書に基づく事業展開を行った。					
	サービス水準の維持	・サービスの水準を維持する努力はなされているか ・課題解決の努力をしているか		・課題解決に向けた取組	△	・熱中症対策への協力体制の構築がなされていた。 ・鍵の貸出し時間の見直しや屋外競技場の無料開放について対応を求めたが、柔軟な対応に至らなかった。 ・後任事業者への引継ぎが適正なものであったとは言えない。					
	利用状況の把握	適切な施設の利用状況か		・利用者数 ・施設稼働率	○	・施設利用者数は概ね2%増となり、利用者の増加につながる運用が図られていた。					
状況経理	収支決算状況	・適正に執行されているか ・管理コストが上昇していないか		・帳票の管理 ・収支状況 ・予算と決算の比較	△	・9年目で初めて令和6年度利用料収入額が令和6年度協定書で規定する利用料金収入見込額を上回る状況となったが、自主事業収入やエネルギー費の高騰等により収入額が減となり、令和6年度は18,218千円の赤字収支となった。					
運営体制	人員の適正な管理	・人員の適正な配置 ・継続的なレベルの維持に努めているか		・人員の配置状況・勤務体系 ・指導・研修体制 ・知識・経験を有する人の配備	○						
	利用者の苦情・要望等の対応体制	苦情等への対応は適切か		・苦情・要望への対応体制 ・報告書の作成状況	○	・利用者への対応は概ね良好であった。					
	危機管理体制の確保	事故・災害発生時の対応はできているか		・訓練等の実施実績 ・マニュアル等の作成	○						
	関係機関・地域との連携体制	連携を図るための組織・体制を整えているか		・定期的な情報交換等の開催実績	○						
その他	市民サービス向上のための自主的な取組	市民のニーズをとらえた取組の有無		・事案ごとの申請内容	○	【継続取組内容】 ・自主的な使用料値下げ(①夏季のアリーナ空調料金、②プール中学生料金、③トレーニング室高齢者料金、④障がい者の介助者(市外者)料金) ・温水プールでの大谷小学校プール授業受入れ 【令和6年度新規取組事項】 ・クーリングシェルター設置に関する協定締結 【自主事業の実施】 ・スポーツ・パラスポーツフェスタ体験イベント:404人 ・施設無料開放(5月5日温水プール幼児・小中学生以下無料:212人、11月4日温水プール:250人) ※毎年実施されていたオリンピック等を招聘しての自主事業が、未実施であった。					

5 加点項目への評価

評価内容	特記事項
(1) 地域密着への取組 (2) 安定的なスポーツ環境の構築	(1) 地元雇用を積極的に推進し、地域人材の活躍の場を提供した。また従来から実施していた小学校の施設見学の対応、大谷小学校プール授業の受入れ、中学校への職場体験訪問については、市域を越え那珂川市立中学校からの受入れも行うなど、教育活動への協力を積極的に行った。 (2) 公平公正な対応を維持しつつ、利用者に寄り添った対応が使用者からの評価が高い部分であると言える。

6 総合評価

評 価	コメント
B 適正であると認められる。	・利用者の増加につながっている状況は、これまで利用者に近い立場で接し、安心・丁寧な対応が図られていたということがわかる。 ・利用者からの意見や要望に対し、全般的に改善の検討を進め、可能な限りの改善の取組を行った。 ・光熱水費のエネルギー価格の高騰の状況にも関わらず、利用料の減額サービスを維持したまま、サービスを継続した点を大きく評価しているが、収支の結果としては赤字となっており、安定的な運営とは言えない状況であった。